

産地戦略

実施主体 鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会
 都道府県 鳥取県
 対象地域 鳥取県全域
 対象品目 水稲

実施期間 令和7～11年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付けてください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

プラスチックレス肥料の活用によってプラスチック被覆肥料の使用量低減を図りながら、出荷量増加へと繋げていく

現在の栽培体系

□:元肥 ●:田植え ×:除草剤、病害虫防除 ▲:中干し ■:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		□~□ ●~● ×~× (箱剤、除草剤)		▲~▲ ×~× (出穂前、出穂後防除)			■~■						例として平坦部コシヒカリを示す。栽培体系の詳細については各地域の農協等の栽培暦を参照。
技術名													

グリーンな栽培体系

□:元肥 ●:田植え ×:除草剤、病害虫防除 ▲:中干し ■:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		□~□ ●~● ×~× (箱剤、除草剤)		▲~▲ ×~× (出穂前、出穂後防除)			■~■						例として平坦部コシヒカリを示す。栽培体系の詳細については各地域の農協等の栽培暦を参照。
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	10939	▶ 10939	ひとめぼれ、コシヒカリ、きぬむすめ、星空舞の作付面積
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	6	▶ 70	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	6	▶ 70	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	6	▶ 70	

取り入れる技術に応じて取組面積の目標等が異なる場合は、行を追加する等で分かるように記載してください。

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	プラスチック被覆肥料による施肥	▶ プラスチックレス肥料による施肥	プラスチック被覆肥料の使用量の低減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	プラスチックレス肥料の使用料（100t）	2	▶ 30	現状の使用量は水稲以外の品目も含む。目指すべき水準は、肥料の窒素成分を20%、全量基肥施肥体系導入面積を作付面積の70%として算出（端数切捨て）。
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

指標は、以下のとおり設定してください。

- 化学農薬の使用量の低減の場合：使用回数、成分数、使用量、ADIなど
- 化学肥料の使用量の低減の場合：使用量、NPK成分量など
- 省力化に資する技術の場合：作業時間、作業人員、作業工程数など
- 有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの排出削減：省略可（設定した場合も、フォローアップの対象とするかどうかは任意とします）
- 化学農薬の使用量低減、化学肥料の使用量低減の場合も、技術の特性上設定が困難な場合は都道府県知事が認めれば省略可

関係者名	JA等	鳥取県 経営支援課農業普及推進室 鳥取県 農業試験場 鳥取県 各農業改良普及所	鳥取県生産振興課	
役割	技術指導（普及所等と随時連携）	技術指導（JA等と随時連携）	事務手続き等	

その他